

会 議 報 告 書						
会 議 名	令和5年度第2回草津市認知症施策推進会議					
開催日時	令和5年7月25日(火) 14:30~15:50					
開催場所	草津保健所 3階大会議室					
委 員	役 職	氏 名	出欠	役 職	氏 名	出欠
	委 員	金森 雅夫	欠席	委 員	田辺 晶	出席
	委員長	宮川 正治	出席	委 員	中村 敏治	出席
	副委員長	中野 悦次	欠席	委 員	原田 節子	出席
	委 員	上野 京	欠席	委 員	服部 勝義	出席
	委 員	服部 静香	出席	委 員	青木 裕未	出席
	委 員	アトソン 美加子	出席	委 員	関根 秀子	出席
	委 員	松永 将孝	欠席	委 員	渡邊 邦子	欠席
	委 員	新村 真喜子	出席			
事 務 局	健康福祉部：永池部長					
	長寿いきがい課：松本課長、力石課長補佐、三越係長、河原田副係長					
	介護保険課：高阪課長、大西課長補佐					
そ の 他	傍聴者 1名					

1. 開会および挨拶

<草津市附属機関運営規則に基づき、本委員会が成立していることを報告>

<健康福祉部長から挨拶>

2. (報告) 令和4年度実施介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果概要について

○事務局

【資料1に基づき説明】

○委員

認知症サポーター養成講座の認知度が低いことが課題だと思うが、どのような周知啓発を行っているか。

○事務局

地域での啓発に加えて、大学や小中学校など幅広い世代への周知に努めている。

○委員

周知啓発を行って、どのような成果が出ているか。

○事務局

個別の働きかけを行った結果、今年度は、榊平和堂の各店舗での受講をはじめ、事業所やのびっこ（放課後児童育成クラブ）で申込みが増えている。

○委員

以前に認知症の学習を小学校の授業の中でやっていただきたいと話したが、進捗はあるか。

○事務局

全国的にも文部科学省から各小中学校へ認知症サポーター養成講座の受講勧奨通知も出ており、昨年度に山田小学校から依頼があった。

○委員

認知症サポーター養成講座という文字を見ると、受講すると何かしなければならぬという印象を受けるのではないか。

○事務局

調査の質問票には、認知症サポーター養成講座の説明を記載している。

○委員

前向きなアンケート回答となっているが、その思いが実際の行動につながっているかは疑問。どのように行動につなげていくかを考える必要がある。

○事務局

御指摘のとおりであり、次期アクション・プランの策定に活かしていきたい。

○委員

調査の結果について、市広報に掲載してはどうか。

○事務局

限られた紙面の中での掲載に課題はあるが、調査結果を活用した内容やHPの活用等を検討したい。

3. (協議) 草津市認知症施策アクション・プラン第4期計画の素案について

(1) 第1章および第3章について

○事務局

【資料2に基づき説明】

○委員

4ページの地域安心声かけ訓練について、「行方不明時の対応を模擬的に実践する」と説明があるが、実際は、行方不明の人を捜索する訓練ではなく、近所の方が道に迷っている場合の声かけや対応方法について訓練している。実態に即した表現に改めた方がよいのではないか。

○事務局

御指摘のとおりであり、表現を改めさせていただきます。

○委員

認知症と要介護度、また経年の変化について、因果関係は調べているのか。

○事務局

認知症の症状は人それぞれであり、要介護度と病態の因果関係は把握していない。

○事務局

介護度別の認知症の患者数は把握しているが、個別の動向を把握していないため、経年変化と介護度、認知症状の因果関係は把握できない。

○委員長

認知症の進行と要介護度を分析している学術研究事例があれば、それを啓発に活用できるかもしれない。

(2) 第4章および第5章について

○事務局

【資料2、参考資料に基づき説明】

○委員

認知症にならないように日々の生活に注意している人がいるが、家庭内でその姿を見ているお孫さんは認知症について身近に感じて理解が進んでいる。そうした身近な

事例を紹介することで啓発を深めていけるのではと思う。

○委員

チームオレンジの取組について、介護保険制度を利用することとチームオレンジを利用することの使い分けはどのように考えているのか。

○事務局

具体的にどのような制度設計をするかについて、確定的なことではないが、介護保険制度によるケアマネジメントとは異なる視点の取組になるものとする。

○委員

認知症の予防については、確実に予防できるものではないと思うので、「認知症にならないように、ならないように」と言いすぎると語弊が生じると思うので、表現には留意してほしい。

○委員

昨年度の会議で、本人ミーティングの説明があったが、進捗状況はいかがか。

○事務局

次期計画に位置付けて、十分に議論を深めていきたいと考えている。

○委員長

認知症基本法の成立があり、本人ミーティングの重要性は増していくと思う。一方で、どういった方々が本人ミーティングに参加できるのかイメージがつきにくいところもある。よく検討していただければと思う。

○委員

認知症であることを人に言えない現実はあると思う。自身や家族の思いであったり、周囲の偏見であったりがあると思うので、改めて、認知症サポーター養成講座等で正しい理解を深めていかなければいけないと思う。

○委員長

資料1の中で、「認知症があっても住み慣れた地域で安心して生活をするためにどのようなことが大切か?」という問いに対して、「認知症の人の思いを知ること」が32.0%で全体的には高い方であるが、7割程度の人は大切だと回答していない。

どちらかという、認知症になるとどのように介護するかという行動面に注目しがちだと思うが、本人がどういう思いを持っているかということは聞いていかなければならないし、施策に反映していければと思う。

○委員

21ページ、「成年後見制度の利用促進」とあるが、こう書いてあると使った方がいいように思うが、すべての人が使った方がよいという制度ではないと思う。成年後見制度は、必要な人が利用できるように、正しい理解を得ていくことが重要だと思う。

○事務局

御指摘を踏まえて、表現を改めさせていただく。

○委員長

認知症予防の行動計画について、予防効果について検証するような取組はあるのか。また、生涯スポーツの取組に予防効果があると実証されているのか。

○事務局

認知症の予防効果が実証されていないことに対して、市で効果検証を実施するような取組は現時点では予定していない。

また、生涯スポーツの取組については、国の認知症施策推進大綱において、認知症予防に資する可能性のある活動を推進するとして、スポーツ実施率の向上を目標に掲げていることを踏まえ、本市の計画に掲載した。

○委員

地域安心声かけ訓練などの取組に限定せず、地域の中で互いに声を掛け合うような関係づくりに取り組むといった、認知症に限らない視点での取組を記載してはどうか。

○事務局

高齢者福祉全般の視点として重要なことなので、基本目標2の「現状と課題」や「今後の方向」の文章の中で見直しを検討する。

4. 閉会